

立命館大学
図書館
研究会

リットケン

マンガの歴史



- 終戦直後 物資が少なく、赤本漫画が流通。玉石混淆だったが、手塚治虫を筆頭に名作も多数存在
- 1950年以降 終戦直後と同様、物資が少なく状況で資本漫画が流通。低俗なものとされていた
- 2000年以降 漫画の研究が隆盛し、専門学校なども設立される(2001年に日本マンガ学会が設立)。読者層とジャンルが拡大、発展。漫画は「子ども向けの低俗な読み物」から「日本の文化」として世界に発信

出典 カレントアウェアネス(2013.7-12.2007-09-20)

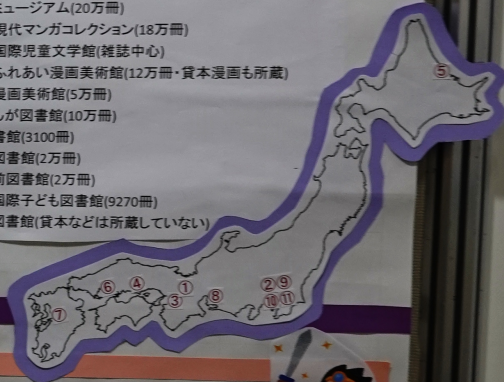
公共図書館におけるマンガの現状



- 1) 公立図書館ではマンガの所蔵は他のタイプの資料に比べ消極的である
- 2) 公立図書館での所蔵が多いマンガは、少年・少女マンガや青年・女性マンガではなく、エッセイマンガである
- 3) まんが図書館などの収集に積極的な図書館であってもカバー率は低い
- 4) 都道府県単位でみてもカバー率は低い

引用 安形雅彦(2016)『日本の公立図書館におけるマンガの所蔵状況』(三田図書館・情報学会研究大会発表論文集)

- ①京都市国際ミュージアム(20万冊)
- ②明治大学現代マンガコレクション(18万冊)
- ③大阪府立国際児童文学館(雑誌中心)
- ④吉備川上ふれあい漫画美術館(12万冊・資本漫画も所蔵)
- ⑤上湯別町漫画美術館(5万冊)
- ⑥広島市まんが図書館(10万冊)
- ⑦菊陽町図書館(3100冊)
- ⑧名古屋市図書館(2万冊)
- ⑨中日黒駒館図書館(2万冊)
- ⑩国立国会国際子ども図書館(9270冊)
- ⑪国立国会図書館(資本などは所蔵していない)



ニーズ

- 研究のための文献資料として
漫画は「出版物の歴史の一部」である。体系的に収集、データベースを作るなど、次の世代へ繋ぐ
- 「誰にでも身近な図書館」への手がかり
・聴覚障害者が書籍を読む際、文字は読めても、内容を理解するのが難しいことがある
→漫画は文字と絵の双方から情報を得られる
→聴覚障害者が読書や図書館により親しむきっかけを作れる可能性
- ・ヤングアダルトサービス 海外→漫画、ゲームがある
日本→主にライトノベルや小説、新書など
☆現代の若者が本に求めるものは...?

「日本のマンガは海外で高い評価を受けている。海外の学校図書館を紹介する出版物では、アメリカの学校図書館にMANGAコーナーが設置されている写真が掲載されている」(引用 図書館大会 2017 67p)



これが私たちの
マンガ収集案だ!!

やっぱり
保存すべき

○県立図書館が収集、保存して地方公共図書館と相互貸借(古い資本・絶版本など)

- デジタルアーカイブ化
 - ・著作権切れ、古く希少な資料があるもの
 - ・国内外のコレクターや博物館等が所有しているもの
 - ・閲覧や貸出が困難なもので一般の方の利用が可能に

例:立命館大学アートリサーチセンター(ARC)

国内外において蓄積してきた大量の文化財(古典籍・美術品(浮世絵・工芸品)、無形文化(伝説芸能)、地理空間情報(地図・地域統計・地誌)やその他の文化資源(ビデオゲームや日本映画・テレビCMなども含むデジタル資源)などの日本文化資源のデジタル・アーカイブの所有

☆実物の資料と電子化された資料、利用方法を変えながら漫画という資料の保存に向き合う必要がある

我々の戦いはここからだ!! 完